



学会報告
Gordon Research Conference "Cancer Genetics and Epigenetics"

国立がん研究センター研究所エピゲノム解析分野 服部奈緒子

2013年4月21日から26日に、イタリア・トスカナ州Bargaで開催されたGordon Research Conferenceに参加しました。今回は、ピサ空港からバスで二時間弱に位置する、緑に囲まれたリゾートホテルでの開催であり、トスカナの美しい風景とサイエンスを満喫するのに格好の場所でした。

参加者は190名であり通常と同程度らしいのですが、協賛として大手有名企業を含む製薬会社・試薬メーカーが15社もあることに驚きました。その多さが物語っているのは、epigenetic drugへの期待感であると思います。講演発表でも、最も多かった内容がepigenetic drugであり、ヒストン修飾リーダーBRD4の阻害剤とThe Structural Genomic Consortiumによるエピジェネティクス関連酵素の網羅的な構造決定の影響を感じました。

Gordon Research Conferenceはクローズドな会であり、論文未掲載データを中心に発表するという特徴があります。今回も、既に一流紙に発表された内容のほかに、直近にでも一流紙に掲載されそうな最新の発表も数多くありました。Dr. X Shirley Liu (Harvard Univ.)の発表は、androgen非依存性前立腺がん細胞株には、H3K27me3を伴わないEZH2 "solo"のゲノム領域あり、一方で、EZH2がその領域に結合するにはSET domainが必要という内容でした(Science 2012)。ホルモン非依存性がんの研究として重要なだけでなく、定説に捕われずに自らのデータに向かうことの重要性を

感じました。BRD4阻害剤JQ1を開発したDr. James E. Bradner (Dana-Faber Cancer Inst.)は、新しいゲノム領域"super-enhancer"に着目し、その領域はBRD4の結合レベルが高いこと、JQ1への感受性が高いことを示し、BRD4阻害剤の遺伝子特異性の仕組みを発表しました(Cell 2013)。

白熱したセッションの後は美味しいイタリア料理とワインが待っており、夕食の場での交流も、とても興味深いものでした。サイエンスの話はもちろんのこと、世界の様々な地域から若手研究者が集まったため、各国のポストドク事情(給料・待遇等)や、子どもを持つ女性研究者も多く参加しており、各国の子育て事情(産前産後休業日数・手当等)も話題となりました。夕食後は、ポスター会場でお酒を片手に、ネタがつきるまでの(お酒がつきるまで?)討論も可能でした。

普段とは全く異なる環境で質の高いサイエンスに触れ、各国の研究者と交流を図れる刺激的な会でした。これからは、網羅的なゲノム・エピゲノム解析で得られた結果と核内高次構造・細胞のイベントを繋げることにより、細胞・個体における高次生命現象を理解することが可能になるのではと考えました。

このような素晴らしい会に、より多くの日本人研究者(特に若手研究者)が参加し、将来的には日本でも開催されるように、日本のエピジェネティクス研究が更に盛り上がることを期待して、私自身も努力したいと思います。



日本から参加された愛知県がんセンター近藤豊先生、新城恵子先生、大岡史治先生と国立がん研究センター牛島俊和先生。

学会会場のホテルからの美しい景色をバックに。



自由時間のエクスカッションで訪れたワイナリーにて。

服部とオーストラリアからのDr. Suzan Clark。

ホームページ (<http://bsw3.naist.jp/JSE/index.html>) 随時更新中!! 求人情報もあります!!

情報を本当に求めています!!

研究員・ポストドク募集および他の研究会のお知らせなど、ニュースレターを利用して公開してみませんか。年会に関するご意見・ご感想もよろしくお願いたします。お近くの広報委員(中島欽一、牛島俊和、梅澤明弘、角谷徹二、古関明彦各幹事)に気軽にe-mailください。

日本エピジェネティクス研究会事務局
東京医科歯科大学 医歯学総合研究科
分子腫瘍医学分野内
庶務担当幹事 湯浅保仁
担当: 阿部良子
住所: 〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45
TEL:03-5803-5184
E-mail: jse.monc@tmd.ac.jp